

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	甲状腺検診かつしか
支援対象者・エリア	東京都内および周辺
企画開催地	東京都葛飾区
企画名称	①甲状腺エコー検診 ②葛飾の原子力防災のこれまでとこれから（学習会）
実施期間	①2019年6月9日（日） ②2019年12月1日（日）

支援活動の目的・内容・感想

（どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など）

- ① 3.11の原発事故後、強い放射能汚染を受けた葛飾区など東京東部地域ですが、福島県外では公的な甲状腺検診が受けられず、個人的に病院を訪ねても冷やかな対応を受けることがあり、近隣地域で市民による甲状腺エコー検診が始まったのを知って、葛飾でも必要を感じ、賛同者を集めて会を立ち上げ、2018年6月に第1回の検診を実施しました（40名受診）。福島からの避難者が検診を受けるには県内に戻らねばならない不条理にも対応して、避難者には無料で受診していただくことで支援にもなると考えました。
- 始めてみると、会場費や機器の使用料、宣伝費や医師・技師へのお礼など費用はかさみ、受診者から「カンパ」という形でいただく金額を1500円程度以上に増やすわけにも行かず、メンバーの自腹では続かず、2019年度に向けて「未来花基金」の申請をしました。
- 基金の助成金があったおかげで、今年度の受診者は32名に留まりましたが、医師・技師に留まらずボランティアのスタッフにも実費の交通費が渡せて、なんとか赤字にならずに済みました。
- ② 前年度は、鎌仲ひとみ監督を迎えて、福島の現状や原子力災害と防災についてのスライドとお話の会を催しました。好評ではあったのですが、2019年度は予算不足もあるし、著名人で人集めをしても、他の市民グループの催しといつも同じメンバーが行ったり来たりするだけという側面もあり、もっと地元に着けた、身近な学習会をしようと考えました。ちょうど葛飾区には「出前講座」という制度があり、会場費だけでできることから、テーマを「原子力防災」にして実施しました。講師の方の話し方も穏やかで解りやすく、地元の状況を知ることができ、予想外に好評でした。

活動の様子（写真など）

①-1 医師による事前説明



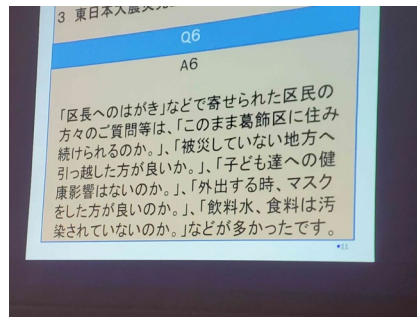
①-2 和やかな検診風景



②-1 講師の分かりやすい説明



②-2 事前に用意した質問に沿って話は進む



※本レポートに掲載された写真はパルシステム東京ホームページ等で公開させていただきます。予めご了承ください。